

教えていただいたカウンセリングのころ

先月、私にとりましてとても大事な恩人が亡くなりました。大須賀発蔵先生といいまして、茨城カウンセリングセンターの理事長をしておられた方ですが、自らカウンセラーとして、様々なお方の様々な心の苦しみに、じっと寄り添い耳を傾け続けられたお方でした。木材関係の会社の経営者でもありましたが、その会社経営の中での痛ましい事件の中から、カウンセリングの重要性に気づかれ、その後深く勉強を続けられ、特にお釈迦様の仏教精神を根底としたカウンセリングを深められて来られました。

私は、2005年7月に失業をし、これからどのように生きていくか、正に決断をしなければならぬ時機でありましたが、丁度その時に東京の在家仏教講演会で先生のお話を初めてお聞きし、そのお姿とお話に大層感銘を深くし思わず涙を流しました。それがきっかけとなり、先生と親しくさせていただくようになり、仏教精神を根底としたカウンセリングをその後学ばせていただくようになった次第であります。

約2500年前にお釈迦様の出現によりまして説かれて参りました仏の教えは、その後様々に変容しておりますが、その原点、根本精神は、人の様々な苦悩に寄り添い、何とかその苦しみから解き放たれ、自由なところを得てほしいという慈悲の心であります。慈悲といいますのは苦しみを抜き、楽を与えるという心です。それが仏心であり、我々人間が奥底に皆持っている心ですね。それはまさに、現代でいいますカウンセリングのところに他ありませんね。

浄土経典の中で大切なお経の一つであります仏説観無量寿経に次のようなお話があります。「王舎城の悲劇」といわれるお話です。

お釈迦様のご在世中、インドのマガダ国の熱心なお釈迦様の信徒であるビンバジャラ王とそのお后イダイケ夫人には、長年お世継ができませんでした。しかし王は無道にもある仙人を殺害してようやくお子を授かったのですが、将来この子はその仙人殺害の報いとして自分らに災いを及ぼすかも知れぬと思い、高殿から産み落としました。しかしその子は指一本だけ折れて助かり、アジャセと名づけられ、しかしその後はその国王夫妻に愛情深く育てられました。

その後アジャセが成人になったころ、お釈迦様のいとこでまた弟子でもあるダイバダッタは、妬み心からお釈迦様に自らが取って代わろうと野心を抱き、アジャセをそそのかしてアジャセの出生の秘密を語りました。アジャセはそれを聞いて大層驚き信じられなかったのですが、それが真実であると分かり、激怒し父であるビンバジャラ王を殺そうと牢獄に閉じ込めてしまいました。しか

しその後、父がなかなか死なないのは母であるイダイケが密かに父に食べ物を差し上げているからであることを知り、アジャセはまたもや激怒し、今度は母を剣で殺そうとしました。しかし、王の重臣に強くいさめられ、母を殺すことは断念しましたが牢獄に入れてしまいました。また父ビンバシャラはまもなく亡くなりました。

この大悲劇の中で、イダイケは大いに自らの運命を歎き悲しみ、どうしてもお釈迦様にそのお弟子に会いたいと救いを求められました。そうすると、お釈迦様自らがお弟子とともにイダイケのもとに参られました。イダイケはお釈迦様が来られたので大いに安心したのかその前に身を投げ出して号泣し、「お釈迦様、私は昔何の罪があつてこんな悪い子ができたのでしょうか。また、お釈迦様はどうして、あんなダイバダッタのような悪人と同じ身内なのですか……」と自分がなぜこのようなひどい目に遭わねばならないのかと、恨みつらみ、自分の運命をのろい、お釈迦様に愚痴の限りを申し尽くします。

その間、お釈迦様はどうされていたか。ただじーっと、温かい眼差しでイダイケの悲痛の声を黙って聴き続けられています。まさに鏡のようであります。

その後、イダイケは大分落ち着いてきたのか、しばらくしてお釈迦様に申し上げました。「お釈迦様お願いします。どうかどうか、私に憂い悩みがない世界を教えてください。私はそこに生まれたく思います。……」と。それでもなお、お釈迦様は黙ったままで一言も発せられません。ただお釈迦様はじっとしておられますが、存在全体が慈悲深い光に包まれています。そうしているうちに、イダイケはお釈迦様に申し上げました。「お釈迦様、私は今、極楽世界の阿弥陀仏の所に生まれたいと願うようになりました。どうかお釈迦様、私にどうしたらその世界に生まれることができるか教えてください。……」

その時に、お釈迦様はにっこりと微笑され、イダイケによく語り始められました。「阿弥陀仏は、何も遠くにいらっしやいませんよ。……」

私は、この経典に現れているこのお釈迦様のご態度を思うとき、大須賀先生のお姿を思い起すのです。一人ひとり丁寧に丁寧に相手の方を尊重されて、じーっと体全体、存在全体で傾聴され、そのお心を聞こうとされていたお姿です。

ここに、先生がNHK教育テレビ「こころの時代」(2006年9月放送)で語られたお言葉を記してこの文章を終わりたいと思います。

『人生の川にも堰(せき)がある。

そこから生命の真実が届けられてくる。』……大須賀発蔵

人生行路における堰止め、行き詰まり、陰の部分を中心に大事に大事に尊重し、それは何とも言えず大変しんどく苦しいことだけれども、そこからかならず救いの道があるぞとお誓いになっているのが仏様ですね。共に聞いて参りましょう。(ご質問、ご感想をどうぞ下さいませ。 mikinakura@nifty.com まで。) 合掌